



# 九条の樹

110号  
2025年2月発行



発行：東久留米「九条の会」 連絡先：Tel 042-473-9489（鈴木）  
http://higashikurume-9.net/ メール：higashikurume9j@gmail.com

## 「九条つてなに？」 というひとへ

○東久留米九条の会20周年○

九条の会は作家の故大江健三郎さんらがよびかけ、当時全国で作られました。児童文学者古田足日さんらがよびかけ、東久留米でも活動が始まりました。年一回の行事や、毎月の世話人会、ニュース「九条の樹」の発行、毎月九日駅前での「九の日宣伝」他の団体との共催での、いっせいスタンディング宣伝、市民パレードなどに取り組んできました。

和を守ったのはアメリカ軍でも、自衛隊でも、自民党でもありません。そのことは2ページの布施さんの講演をお読みください。アメリカや自民党はずっと憲法九条をじゃまもの扱いし、九条を変えようと、躍起になってやってきました。

「九条」をあらためてかんがえる

を明記すべきだ」

憲法九条は80年近くにおたって日本の平和を守ってきました。平

どちらももつともな意見です。次ページの布施さんの記事は日本のリアルが分かりやすく書かれていますのでお読みください。日本もアメリカも中国も軍備拡張で、今とても危険な情勢です。アメリカも日本政府も憲法九条などないもののように、ミサイル配備や敵基地攻撃の方針をとろうとしています。

**軍事に軍事は戦争の道、九条に立ち戻る**

そんな時だからこそ、どの国とも考えの違いは話し合いで解決しようという九条の考えに戻って外交力を強めるべきです。

九条の会に参加してください。誰でも参加できます。会費なし、参加自由です。

東久留米「九条の会」

◎毎月9日、東久留米駅西口午後4時からの9の日宣伝にご参加ください。

# ガザ、ウクライナの戦争と日本の平和



布施祐仁さん  
(フリージャーナリスト)

布施祐仁さん（ジャーナリスト）  
十月十日の講演のつづきです。

## 戦後ずっと日本を戦争に動員したかったアメリカ

アメリカは1950年の朝鮮戦争当時から日本の再軍備を考えていました。朝鮮戦争は、北朝鮮が韓国へ攻め込んだ事によってはじまりました。在日の米占領軍を朝鮮に向かわせました。その空白を埋め治安対策のために日本人の警察予備隊を作らせました。米側は戦火が広がったら日本の戦力も投入したいと考えていました。その後警察予備隊は自衛隊へと変わりますが、アメリカの考えは、米軍の

指揮のもと、世界戦争のときに自衛隊を出動させたいということでした。

それを阻止してきたのは憲法九条の存在です。自衛隊はあくまでも専守防衛のためのもので、外国を攻めることができないことは米側も分かっていました。アメリカCIA解禁文書を見ると1960年当時の岸信介首相に相当お金を支出している。戦犯で逮捕されていた岸を解放させテコ入れたのは、彼だったら憲法九条を変えてくれると期待したからでしょう。安保改定をやり遂げたが、世論を敵に回し国会を何十万人に取り囲まれました。その結果九条改定は出来ませんでした。その後しばらく自民党政権は憲法改定を持ち出せませんでした。

そのことの影響はベトナム戦争です。アメリカはアジア太平洋地域の同盟国を動員しました。韓国、

フィリピン、タイ、オーストラリア、ニュージーランドです。韓国は30万人派兵し5千人以上が戦死しました。唯一アジア太平洋地域の同盟国で派兵しなかったのは日本だけでした。憲法九条があるからです。

1999年、周辺事態法が作られました。日本が攻撃を受けていなくても、日本の周辺で戦争が起きたときに自衛隊がアメリカ軍を支援するという法律です。しかしその法律でも武力行使は認められず、あくまでも後方支援に限定されました。これも憲法九条があるからです。アメリカの戦争に日本を動員するという最初の思惑はずっと実現しなかったのです。しかし2014年安倍政権のとき閣議決定で憲法解釈を変更しました。これまでの個別的自衛権しか認められないという憲法解釈を変えて、集団的自衛権行使を認めたのです。日本が攻められていなくてもアメリカがどこかで戦争を始めたから、それに日本も加わっていくことになったのです。

これによって台湾で戦争が起き

たとき日本も参戦していくことになりました。麻生元副首相は「台湾を防衛するために日米台湾は中」と言っています。専守防衛では全くない。憲法は変わっていないのに……です。

## 今 何が起っている

そういう中で、今日日本政府が何をしようとしているかと言うと、台湾に近い先島諸島、与那国島、石垣島、西表島、波照間島等の島々の約12万人ぐらいの住民を、戦争が始まる前に九州や山口県に全員移す計画を作っています。民間フェリー会社の船の協力を要請して1日2万人、6日間で輸送する計画です。すでに石垣市は山口県、福岡県、大分県、竹富町は長崎県、与那国町は佐賀県、宮古島は福岡、熊本、鹿児島など受け入れ計画を作れという指示も行っています。表向きこれは国民保護と政府は言っていますが、僕はそう思いません。戦争になってまっさきに攻撃される恐れがあるのは、米軍基地がある沖縄本島です。沖縄本島は避難指示は出すのですが、九

州へ避難とかではなく屋内退避です。部屋の中に入れてくださいというのです。ミサイルが飛んでくるときに自宅にいて身を守るのですか、という話です。本当に国民のことを考えているなら沖縄本島のことも考えなきゃいけないのに、

## 台湾有事で日本中が戦場に

数千人がマラリヤで死亡しました。では今回避難する九州は危険ではないのかと言えば、そんな保証はありません。

なぜか先島諸島だけです。先島の人にしても九州は大丈夫なのでしょうか。アメリカと日本が今計画しているのは、いざ台湾有事となったら、沖縄の米軍基地を先島諸島に分散して、臨時の基地を作り攻撃を行う。その時そこに住人がいたら邪魔ですから、あらかじめ住人を九州に追い出してしまおうという計画です。南西諸島全体を軍事基地にしようとしているのではないかと、私は考えています。こういう考えが説得力を持つのは沖縄戦の経験です。石垣島、八重山諸島では米軍が上陸しての地上戦はありませんでしたが、多くの犠牲が出たのは戦争マラリヤでした。当時石垣島に駐留していた日本軍が住民に対して、住んでいるところから出てマラリヤの危険のある山間地帯へ避難させ、その結果、

アメリカのシンクタンクCSISが台湾有事のシミュレーションを行っています。結果は中国の台湾侵攻は失敗。しかしその代償は大きく、日米は艦船数十隻、航空機数百機、人員数千人を失うとしています。まっさきに攻撃を受けるのは在日米軍航空基地で三沢、岩国、横須賀、嘉手納基地です。嘉手納基地の中には墓地も作られると書いています。米軍はそれを想定して、ハワイに避難したり日本民間飛行場に分散させる訓練をすでに行っています。自衛隊もミサイル攻撃を受けることを想定して、全国の自衛隊基地を強靱化することを進めています。建物の壁の厚さを3倍化するか、司令部を地下に移すとか、化学物質が入り込まないようにするとかやっています。戦争になったら、日本全国が戦場になることを認めている

わけです。

こうなつたときに国民の命は守れるのでしょうか。地下施設に国民は入れないです。25万人の自衛隊員も入れない。幹部だけです。先の戦争でも、最後は一億玉碎と言つて戦うことを求めましたが、自分たちは長野県の上奥に大きな豪を作つて軍幹部や皇室が最後に駆け込むことを考えました。また同じことを考えているのではないかと。国民もシェルターを作ろうと言つています。しかしシェルター作つたところで生きてゆけない。食糧自給できない。日本にミサイルが飛んでくれば民間の船も入ってきません。戦争になったら生きていけない国なのです。戦争が起きないようにすることが日本の安全保障です。

## 「抑止力」という危険

戦争をしたいかと言えば日本も米中もしたくはありません。最大の貿易相手国です。恐ろしいのは「抑止」という言葉です。戦争に勝てる戦力を持つていれば戦争を防げる、という考えです。アメリカ

かも中国もこの考えで軍拡しているわけですが、これが実は危ない。中国の立場は台湾の統一を考えられていることは確かです。平和的統一という立場は変えていません。武力を使うことを放棄しているとは言いません。アメリカも中国が武力で統一することを認めていません。そこで際限のない軍拡になっているのです。台湾は現状維持を求めています。独立するとは言っていないが、一つの中国も認めないと言っています。独立派が広がるのを中国は恐れていて、おどしているわけです。

怖いのは緊張が高い状態はどこで火が付くかわからない。台湾周辺で中国も軍事演習を繰り返していて、日米オーストラリアも参加して軍事演習を行っています。どこで偶発的衝突が起こるかかわからない。偶発的でも兵士が死ぬと、ナシヨナリズム、愛国心に火が付く、それが危ない。残念ながら緊張はしばらく続くでしょう。大事なことは第3国が冷静になることなのですが、日米の戦争準備は火に油を注ぐものです。(以下次号)

## 戦争体験記

# 父親と親族 六人戦死

松元忠篤（小山）

せん。

父は1942年に中国東北部に出兵し1944年正月に除隊となり帰郷、その夏再び召集され9月にフィリピンに向け出兵しました。12月21日に弟が生まれたとき、手紙で父に知らせたのですが、届いたかどうかわかりませんでした。6月20日ルソン島ヌコバビスカ州トゥカン第12陸軍病院において死亡との通知が来ました。36歳でした。

近くの家の前を通っていた軍馬と軍人が機銃掃射され、戸袋にそのあとがはつきりと残っていたのを覚えています。終戦の8月15日の前に、スイカなどを抱え近くの山に避難した記憶があります。が、その他はよく覚えていま

フィリピンのジャングル地

帯の戦闘では、傷病兵は薬殺され、翌日その場に行くと白いウジ虫がたかり、白い塚のようだったとの報告もあります。フィリピンでは現地の人々111万人、日本軍関係者50万人が犠牲になったとの記録があります。

父の弟は43年7月15日東ニューギニアの戦闘で戦死27歳、母の兄弟4人も、ラバウルに行く輸送船沈没で、真珠湾攻撃の特殊潜航艇で、ブーゲンビルの火炎放射器の戦闘で、スマトラに行く輸送船でそれぞれ戦死しています。

従軍看護婦の証言によると、

2020年2月に厚生労働省のフィリピン慰霊巡拝が行われ、それに応募し参加しました。無謀な戦争で戦死者の6割以上が餓死で亡くなったとの報告もあります。

このような戦争は二度とやってはなりません。

このような戦争は二度と



## ◆平和を考える本◆ 『北緯44度 浩太の夏』

僕らは戦争を知らなかった

有島希音・作／岩崎書店

1500円＋税



北海道の西北、日本海に面する北緯44度の町に住む小学5年の浩太たちは、グループで町の不思議を調べることになった。

海辺で出会った老人の「海にひっぱられる」という言葉に触発され、意味を探るうちに昔の出来事に突き当たる。

1945年8月15日に日本が敗戦を国内外に宣言した7日後、樺太から引き揚げてきた人々を乗せた非武装の船が、北海道西北の海で攻撃を受け大破、沈没した。戦争は終わっているのに、誰がこんな理不尽なことを？「海にひっぱられる」とは、未だに海の底に眠っている人々の魂が呼ぶ声なのか、それとも……？

（高田桂子）